



埼玉大学教育学部附属中学校は昨年度から、生徒主体の文化活動を「サークル活動」として新たに開始した。中でもテクノサークルは、文化祭や外部イベントでテクノロジーを用いた活動を披露し、注目を集めている。

主な活動は、3Dプリンターや「立体制作ソフト」を用いたものづくりとなる。特に「テクセル」という独自のカプセルトイは校内外で人気を博している。鳥を模した同校のマスコットキャラクターや校内にある教具や事務用品の模型を3Dプリンターで製作し、景品としてカプセルに封入。デザインから設計、製作まで全て生徒たちが行っている。

「Fusion」や「Blender」と呼ばれるソフトで画像を取り込み、立体を



創作したカプセルトイが人気

設計する。現在は教室配置図を取り込み、校舎の立体案内図を製作中だ。

10月初めには都内で開催されたものづくりのイベントに参加。企業関係者が多数参加する中に「テクセル」を持ち込み、100個ほどの商品売り上げた。収益は活動資金に充てるといふ。

会場で出展者と交流した際、3Dプリンターを活用する人たちが同士で、立体の名刺を交換していると知ったことをきっかけに、校章をモチーフとした名刺作りにも挑戦した。

「生徒の方が技術に関する知識が豊富だ」と話す顧問の木村僚教諭。自主的な活動を見守りつつ、外部のイベントを紹介するなど活動の幅を広げるきっかけを提供している。

代表者を務める2年生の小川和豊さんは、「この活動をやりたいという理由で、入学した。今後は3Dプリンターでの模型作りをさらに盛り上げたい」と話した。

- ◇活動場所 同校技術室
- ◇活動日 平日(週2回)の午後3時50分～5時
- ◇部員数 9人
- ◇内容 3Dプリンターを使ったものづくり、プログラミング、ロボット製作、校内外のイベントへの参加

■活動概要■

10月に行われた「Maker Faire Tokyo2025」に参加する部員(中央)

【今回は12月1日付掲載】